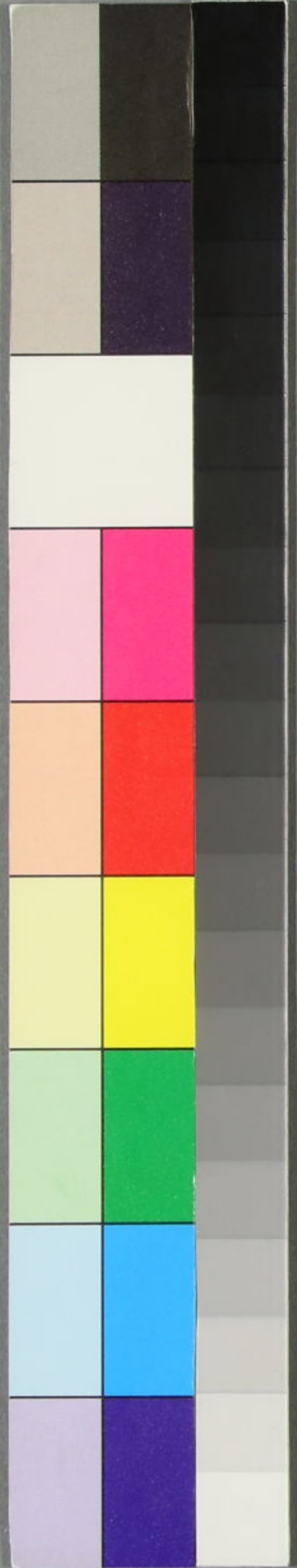


西郷氏對問

寺評真贋

服部文庫  
イ 17  
2189  
71





117  
2189  
71

特

一 官員布置ノ次序當分ノ通ニテ宣シカレシ内取捨ノテ条ハ



一 上下官員一旦掃蕩黜陟精撰有ヘシ官員ハ可成丈減ス  
ヘキヲ減シ簡易ヲ貴フ

一 皇國ノ国体ハ以ノ通り目的ハ以通りト本然朝中古以上ノ體  
ヲ本ニ居ヘ西土西洋各國迄モ普ク斟酌一定不拔ノ大  
体ヲ知スヘシ

目録

- 一 制度紀綱礼節刑典等ヲ定美事府藩縣共同奉私
- 二 斟酌シテ制ヲ改ムルヲ禁ス軍制モ亦然リ
- 一 海陸軍制兵數等定ル



西洋各国ヲ斟酌シ本朝ノ兵制ヲ定立スヘシ最一年ノ入ヲ照シ国力ノ堪ル所ヲ以テ制ヲ立ヘシ方今ノ形勢海陸軍ヲ以テ保護スルニアラサレハ

皇國維持シカタク最第一ノ要件ナレハ力ヲ量リ財ヲ量ラス目前ノ快適ヲ欲シ無根ノ兵制ヲ張テハ久シキ堪サルノミナラス国力疲弊終ニ支ユルヘカラサルニ至ラニ故ニ堪ル所ヲ以テ兵制ヲ立一年ハ一年ヨリ強大ニ相成矣様ニスヘシ

一 所置大小體用緩急輕重施行ホノ次第等普ク局々ヒ評議ニ裁一ツ書ヲ以テ存意ノ趣申出

廟堂ニ於テ熟議評決ノ上ニ紙ニ書調定ノ歸着ヲ居ヘ以来人代謝アリモ勤ラスヘカラサル法ヲ定ツヘシ

世ハ活物ナレハ施行順<sup>序</sup>席ノ次第一ニ其通りニ行ヘカラスト虽前後矛盾體裁ヲ誤ル事多カルヘシ大綱細目立テ小節目ハ節目<sup>ハニ</sup>應ニ取捨シテモ取捨スヘシ言路ヲ開キ衆說ヲ容ルハ勿論ノ<sup>一</sup>ナレモ我ノ定制目的ナケレハ取捨方法ヲ失首尾錯乱成功アルヘカラス

一 會計出入ノ大体制限ヲ定ムル<sup>一</sup>會計ハ經綸ノ一業欠ヘカラサルノ要樞ナリ其体治定セサレハ万事瓦解セシ固ヨリ會計ノ大節ハ一年ノ入ヲ



計り出テナスノ外更他事ナシ歳入租税ヲ本<sup>ノ</sup>計<sup>ノ</sup>十分一ヲ以テ御手許諸入費治事一切海陸軍ノ用途ヲ云如ク各配分メ其定度ヲ超過セシムヘカラス如此制ヲ定シ六生産ヲ開キ臨時非常ノ用途ヲ備エル等ノ一アルヘシ無法ノ金札施行日本中ニ流布セリ之ヲ以テスルニ法ヲ以テセサレハ上下共困厄<sup>厄</sup>終ニハ立行ヘカラス早運轉引替ノ法ヲ<sup>改メ</sup>立害ヲ未然ニ救フ<sup>外</sup>ニ租税ノ法<sup>改メ</sup>定メ一年ノ入ヲ以テ諸費ヲ分テ蓄積ノ道ヲ立非常備ヘ且生産ヲ開キ高利ヲ組セ外国交易ノ法ヲ立高權我ニ歸スルノ制ヲ施スホノ如キ僕嘗テ朝官會計員外言事ノ命ヲ奉シタレハ待論<sup>リカ</sup>ル<sup>事</sup>長<sup>ク</sup>シテハ安ニ贅セス

右等ノケ各官員精選ノ上廣議熟論ニ千歳不<sup>平</sup>ノ制ヲ定ムヘシ国体目的要領ノ件ニハ千<sup>カ</sup>カスヘカラスト虽法ニ至テハ古人モ弊ナキノ法ナシト云ニ如ク時世ニ從ヒ可否有ヘケレハ時ニ從ヒ勢ニヨリ沿革スル<sup>ト</sup>モアルヘシ然レ<sup>レ</sup>是ヲ改ムルナキハ衆議ノ上明白ニ改正シ卒然輕忽ニスヘカラス

一朝廷ニ安ケレハ所謂空名ヲ上ニカケ玉フマテニテ動スレハ諸藩兵威ヲ以テ上ヲ動シ朝威相立期ナシ尾大不振<sup>ハ</sup>古



今ノ大害也故ニ諸藩強大ノ国ヨリ精兵一万余人其家  
屬共朝廷ニ獻セシメ永

宜一作直

朝廷ノ名籍ニ連子禁衛ノ兵トシ若不宜ノ者アルハ  
此兵ヲ本ニ立テ征伐スヘシ

一 官員其職掌ヲ定メ各相委任シテ身ヲ以テ其職掌ヲ

奉守シ他ヨリ動撰セラルヘカラス下情ヲ通シ衆説ヲ容ル

ハ自判事ナリ我職ヲ超他官ヲ侵スルハ展禁スルヘシ

一 政權一途ニ出サレハ分國支離紛紀ナリ諸事貫徹セス

故ニ

廟堂上政權一ツニ歸シ參政ノ人ニ常ニ閣下ニ居住シ如何

成大乱変莫アレニ政府ヲ立サレハカニサレ法ヲ立ヘシ

一 奉職四年制ヲ改メ永ク其職ニ任スヘシ四年交代ノ制モ

一 理アリト虽草創ノ初メ紀綱法度全ク相立ス遽ニ米

国共和制ヲ學ハ時ト勢トヲ知ラサルニ似タリ法度確

然ト立チ人代リテモ法制依然タル時ニ至テハ抜ヘカフ

ス漢土ハ久ク其官ニ任スルヲ善トス次涯久任ノ制ヲ定メ

考保殿最ノ法ヲ設ケ黜陟ノ道ヲ立ヘシ

一 官ヨリ手ヲ下スヘキト下スヘカラサルトノ条目ヲ要路執

政ノ人ニ早ク了解スヘシ政度紀律賞罰与奪等ノ

權ハ上ニ持シ少シモ失墜スヘカラス米價金銀法裁

政疑制



相場ニモ且高等ノ類ハ勢ト下トニ任<sup>セ</sup>禁制スヘカラス唯  
官ヨリハ不正ヲ正シ民害ヲナシ或ハ權衡ヲ治ル者ヲ制  
米金諸式ノ都會ニ輻湊シ融通ノ宜ニキ様ニ大体ニ  
目ヲ注スヘシ是古今ヨリノ定法カニヘカラス

一 命令ヲ輕クスヘカラス

鎖<sup>項</sup>ニタル命令且虚文浮飾ノ事トモ行ル、令ハ必ス  
幾スヘカラス上令シテ下行サルヨリ憂ハナシトモ戒  
タリ法令ノ行サル時ハ何ヲ以テカ世ヲ維持セシヤ時勢  
ヲ察シ人情ヲ汲契ナク害ヲ行ヘキヲ見テ令ヲ發  
セニ度發シタル命令ハ下知何程物議沸騰スニ身

ヲ以テ法ヲ守リ動搖畏<sup>縮</sup>スヘカラス

孝<sup>一作厚</sup>

一 忠孝仁愛教化ノ道ハ云々テモテク政事ノ大本ナレニ施

行ノ上ニ至テハ法ヲ以テ相制スルノ外ナカルヘシ高鞅申  
韓ノ如ク苛刻ノ法ヲ立ヘシト云ニハアラス全体法ハ人ノ  
為ニ設トアリ人ヲ罪ニ陷ラサル様ニ禁ヲ立相防クノ具  
ナレハ忠<sup>厚</sup>孝仁愛ノ意ヨリ聖人ノ設ケシ者也故ニ小人情  
ヲ汲衆人ノ優キニ堪ル所ヲ以テ實ニ法ヲ設ケ法ハ上  
下ニ履行全ク履行スヘカラス

閑闡以末世上一般ニ七八ハ小人也故ニ小人情ヲ察シ  
人情堪ル処ヲ以テ諸事旋<sup>施</sup>行スヘシ言ハ君子ノ心



テ我ノ體ヲスヘ十人ノ情ヲ汲テ事ニ施スト云様  
一 朝廷上ヨリ府藩縣ニ至ルマテ制令一輒ニ出テ前後一貫  
ニ場ニテラサル様ニスヘシ然ラハ下疑惑ヲ生シ人心不安堵  
白ナカルヘシ

一 華族家ノ下格ヲ設ケ朝官四位以上ノ藉ニ入ルヘシ然  
ラサレハ其生藩ニ因縁シ弊害ヲ生スル有ヘシ

一 上ヨリハ諸府縣藩一視同仁其間一點ノ愛憎推ニヘカ  
ラス

一 外國交際ハ方今ノ急務忽ニスヘカラス眼前ノ要條ナリ  
早ク自主独立ノ體ヲ定メ約定ニ履行一事ナリ信

主一作裁

義ヲ誤リ礼節ヲ失フヘカラス彼我ヲ要シ兵威ヲ以テ  
約定外ノイヲ推サハ条理分明ニ示諭シモ動搖大  
懼スヘカラス苦戰ノ字ヲ恐レ狂ケテ彼ノ説ニ從ハ因循  
苟且ニ陥リ国体相立サルノミナラス却テ和言破レ  
遂ニ彼ノ制ヲ受ルニ至ルヘシ故ニ道ヲ以斃レハ遺憾  
ナキモノニ定ムヘシ

一 攻ル勢有テ漸守ラルモノ也本朝攻戰ニ體ヲ居ヘ治乱  
ノ政治一途ニ歸シ海陸軍ヲ以テ国家ヲ護シ遂ニ攻  
守ノ權我ニ歸スル所ヘ目的ヲ立ヘシ是  
廟堂上ノ標準ナリ勢ヲ計ラテカヲ計カラス即手



ヲ下スヘシト云ニハアラス

一 開國ノ道ハ早ク立タキコナレト外國ノ盛大ヲ羨ミ財  
カヲ省ス漫リニ事ヲ起シテ終ニ本体ヲ疲ラシ行  
ヘカラサルニ至ラコ此涯蘇元仕截ノ大業鉄道作ノ類  
切廢止シ根本ヲ固クシ兵勢ヲ充實スルノ道ヲ勤ヘシ  
政ハ正也人正シカラサルヲ正シ四民各其所ヲ得セシムル言  
ヒ尋常ノ中ノ一也要路執政人ニ公平至誠ヲ以テ  
ニ事ヲ詐謀ヲ用ヘカラス人ノ意表ニ出一村ノ愈快ヲ  
好ム如ク戒ヘシ

一 世ハ人心歡欣シテ流通スルヲ貴ヒ大法ヲ設ケ甚ニキチ

言疑謂

制スル道ニメ質素節儉等ノ令ハ必下スヘカラス唯要  
路ノ人ニハ質僕ニ驕奢ノ風アルヘカラス

一 郡縣封建ノ制尚又未詳議スヘシ方今現事ノ形勢ヲ  
觀ルニ郡縣制ハ長ク行レカタクニ其弊害モ衆

資疑質

一 百事成切急又ヘカラス西洋一般皆久シキニ堪ルノ資

ニシテ十年ニアラサレハ百年ニ期シ其身ニナラサレハ其  
子ニ待チ必其事ノ成ルヲ要ス今日ノ盛ナルニ至ル所以  
也義勇激烈ハ本朝ノ性ナレト必久シキニ堪ルヲ能  
サルノ病アリ事ノ大ナルモノナト成ルヲ遲キモノニ堪



カウサルモノニ堪然ニテ后ナルコトアルヘシ諸侯着目  
スヘキ要件也

右ノ外措置ノ事多クアリト虽コレヲ目撃セサルハ  
仮令見テ立テモ時機ニ合サルコトモアルヘシ命ニ任先  
其大体ヲ論スルノミ高覧ノ後ハ丙丁童子ニ與ヘ給  
ハニ事ヲ願フ